

N K H

長岡市立科学博物館報

No.47 1985

特集・長岡の絵馬



N K H

47号

《長岡の絵馬》

1985年3月

はじめに

長岡の神社・仏閣に掲げられている絵馬を集めてみました。紙幅に制約があるので、調査の対象を信濃川以東の地域としました。時代は、近世後期から大正時代までのもので、昭和に入っての新しいものは省いています。市街地は戦災で焼けていますので、ほとんどが周辺農村部に限られます。奉納者の心意、田舎絵師の力量、そして郷土文化の一端に接していただければ幸いです。

(鈴木昭英)



◀② 絵馬奉納の景
高島町向島新田 神明社

▼③ 絵馬奉納の景 宮路町 石動神社



◀① 表紙写真
神馬図 明治41年
高島町向島新田
神明社

長岡の絵馬

神仏に絵馬を捧げて入学・交通安全・家内安全を祈る——こんにち全国的にみられる風習である。

絵馬略史 絵馬奉納の習俗は古い歴史を持つ。

絵馬は、馬の姿を描いた小さな板絵から出発した。“絵馬”なる言葉のおこる由縁がそこにある。馬の姿を描いた板絵馬を神前に掲げることは平安中期の『本朝法華験記』の説話に見えており、さらに静岡県浜松市の伊場遺跡から奈良時代の木簡や土器と一緒に吊懸用に穴を開けた馬の板絵馬が出土しており、その発生は相当古いことが知られる。

日本の祭りにおいて、馬の背に鞍を乗せ、そこに鏡のついた神や御幣を立て、それを引立てて神幸とすることは広く行われている。こうした飾り物は神の依りつく代であり、これを背に立てていることは、神が馬に乗って降臨、遊幸することを示している。したがって、馬の絵を描いて神前に掲げることは、神靈の降臨、遊幸を願う有効な手段としてなされたのである。古くは、財あるものは生きた馬を献じた。木馬を献ずることもあった。しかし、庶民はそのようなお金のかかることはできない。そこで、小さな板に自ら腕をふるって馬の絵を描き、それを神前に掲げた。

そのうちに、馬の絵だけでなく、願いごとを絵に描いたり、崇める神仏やその由来を絵にして、納めるようになった。ことに、室町時代末期からその傾向が強まり、図柄が多様化し、それにともなって大形の絵馬が登場する。大勢の参詣者から観てもらうことを目的とした絵馬づくりがなされた。

近世初めに絵馬隆盛期を迎えるが、それ以来絵馬の図柄はますます多様化する。神仏図・参詣図・祭礼図・舞踊図・武者絵・歌仙図・説話画等々、祈願や神仏に直接関係ない図柄が選ばれ、奉納された。それも、当代一流の絵師が筆をとり、技を競うこととなった。

それらの大絵馬は、ほとんどが扁額形式のもので、その奉掛の習俗が一種の流行になったから、これを専門的に掲げる施設が必要となり、ここに絵馬堂の発生を見る。いわゆる絵馬の展示場、すなわち博物館である。もっとも、こうした大絵馬が華美を競う反面、民間にあっては、吊懸形式の小絵馬が依然として用いられ、信仰の多様化とともに、その種類を豊富にしていった。

長岡の絵馬 長岡の絵馬は、全国的立場でみてどうで

あろうか。長岡の調査は東半分だけであり、それから判断することは危険であるが、大よそのことはうかがわれる。

長岡においては、絵馬奉納の習俗が決して希薄だったとは言えないが、さりとて多彩性・優秀性を誇るためにもゆかないであろう。絵馬を神仏に捧げるということは、その地域住民の信仰がどうであったか、宗旨はどうか・芸能や文学作品にいかに志向を示したか、生業や商工業がどうであったか、手近なところに絵師がいたのかどうか、などと深いかかわりがある。そうした点を考えてみると、長岡が他地方に比べて絵馬奉納の盛行地であったとはいぬかも知れぬ。長岡で絵馬堂を設備した社寺があったということを聞かない。

絵馬製作の時代をみると、それほど古いものがない。享和元年(1801)の算額(蒼柴神社蔵)が、銘のある絵馬の最古のものである。大部分はそれ以後の幕末から明治時代にかけてのもので、この特集号もその時代のものを集めたのである。

形状からみると、小絵馬の少ないのがひとつの特徴である。小絵馬は庶民の信仰が赤裸々に現われているものだが、それが割合少ない。神馬図・稻荷図・礼拝図などに幾分見られるだけである。主流は扁額形式の大絵馬あるいは中絵馬である。

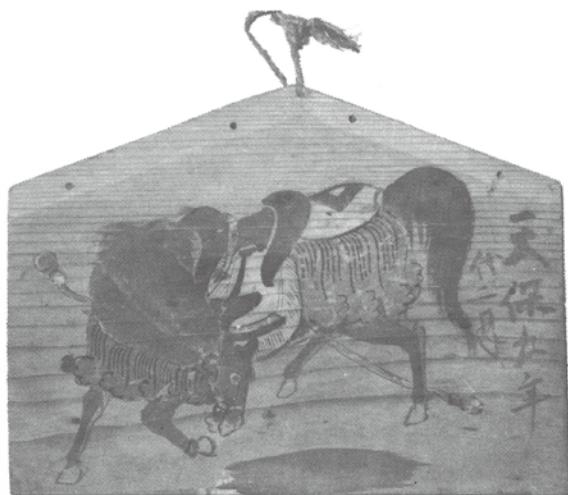
図柄はどうかとみると、神馬図・礼拝図・稻荷図・影向図・参詣図・地獄図・算額・歌仙図・俳諧・芸能図・武者絵・説話画・神話画など、結構多岐にわたっている。しかし、祭礼図や生業図(酒しぶり図・農耕図など)・禁断図・船絵馬のようなものは確認されない。

この中で注目されるのは、信仰する神仏と因縁のある図柄を持つ絵馬の存在である。竹町八幡社の八幡太郎義家図、亀貝町妙音寺稻荷社の稻荷図、妙見町妙見社の妙見菩薩影向図、宮路町石動神社の遊女礼拝図、桂町十王堂の地獄図などがそれで、それぞれその神仏にふさわしい図柄となっている。

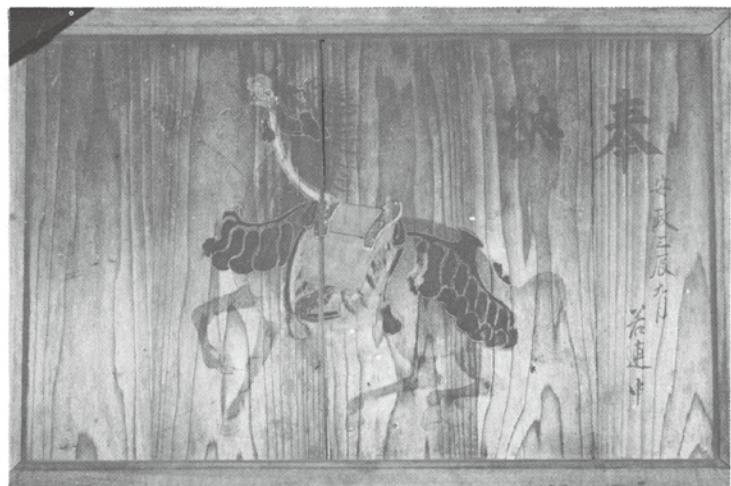
絵馬の美術作品としての立場からみると、竹町八幡社の八幡太郎義家図は武者絵としてよく描かれており、妙見社の影向図は土佐絵風の景観絵として優れ、富島日光社の羅漢遊戲図は宗教画としての雰囲気を持ち、宮路町石動神社の遊女社参図は風俗画として価値がある。

神馬図

絵馬に神馬を表わすことは、絵馬の発生当初以来の伝統であり、それが今日もなお継続して用いられている。長岡でもこの種の絵馬は普及しているが、特に南半部に集中して見られる。比較的小形で、絵の書き様も素人くさのぬけぬものが多い。いずれも左を向き、毛布に鞍をかけ、辻総を下げ、手綱を引く、正装姿の馳せ馬に描いている。その鞍に御幣を立てたのと立てないのがある。御幣は神の依代であり、この馬が神の乗り物としての神馬であることを示す。長岡には、よそで見られるような猿駒曳図や騎馬幣持猿図の絵馬は確認されない。



▲④ 神馬図 天保9年 柿町 観音堂



▲⑤ 神馬図 安政3年
滝谷町犬茂島 十二神社

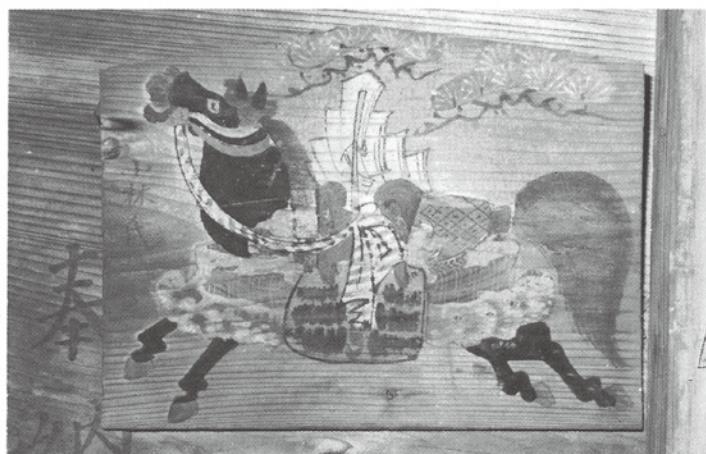


◀⑥ 神馬図
竹町 八幡社

⑦ 神馬図 ▶
中沢2丁目 諏訪神社



◀⑧ 神馬図
高島町向島新田 神明社



⑨ 神馬図 明治2年 ▶
妙見町 三宅神社



男女祈願図

御幣が瑞雲に乗ってはるかかなたの天空から降臨し、それを男子または女子が合掌、礼拝する図である。諸願成就の祈願に上げる絵馬である。⑪は、年18歳の「きみ」という女が瘡（できもの）の神として信仰のある宮路の石動神社に奉納し、祈願したもの。「いしや」は長岡の芸娼妓の置屋であり、彼女はそこに抱えられていた芸妓であろう。⑫は、瑞雲に乗って現われる御幣でなく、額に頭巾をつけ、左手に巻物、右手に剣を持持した白髪の仙人である。おそらく超人的能力が授かるように祈願して奉納した絵馬であろう。



▲⑪ 男子礼拝図 鷺巣町 日光社



▲⑫ 女子礼拝図 明治10年
宮路町 石動神社



▲⑬ 男子礼拝図 慶應元年
高島町 神明社



▲⑬ 向い稻荷 亀貝町 妙音寺稻荷社



▲⑭ 向い稻荷 亀貝町 妙音寺稻荷社

稻 荷 図

亀貝町の日蓮宗妙音寺参道入口左脇に稻荷社があり、各様の稻荷絵馬が10枚ほど殿内に掲げられている。古くから狐は田の神の使いであるとの信仰があり、この寺の檀家を中心とする農民が五穀豊穣を祈ってこの絵馬を奉納したもの。跳び稻荷の図もあるが、2匹の狐が左右対象に座る向い稻荷が多い。2匹の狐は男女の両性を表わし、生殖の利益を得ようとするもの。その間に、宝珠をはさむもの⑯、宝珠と御幣及び鳥居を立てるもの⑰、鎌を手にし束帯の装束を着けて坐る男神像を描き、背後に鳥居、前方に鍬や犁など農具を表わすもの⑯などがある。宝珠は生殖の象徴といわれる。

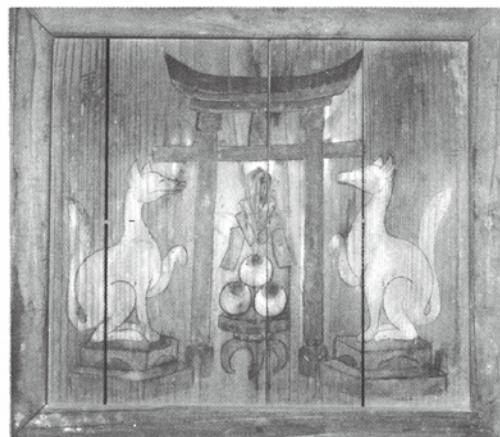


▲⑮ 妙音寺稻荷社内絵馬奉懸の景

▼⑯ 跳び稻荷 亀貝町 妙音寺稻荷社



▼⑰ 向い稻荷 亀貝町 妙音寺稻荷社





▲⑯ 妙見菩薩影向図 妙見町 妙見神社

妙見神社は、妙見町の南々東の山上にある。元は神仏混淆の神社であり、妙見菩薩を祀っていた。この菩薩は神格化された北極星の本地仏であり、北辰菩薩ともいわれる。この絵馬は、妙見の村人が山上の妙見社に参詣したとき、はるかかなたの天空より妙見菩薩が瑞雲に乗って影向（来現）するのに出会い、狂氣礼拝したといい、その場面を描いたもの。麓の原庄七の家で奉納したものともいう。降臨する妙見菩薩やこれを拝する老若男女、妙見社や参道・村道・橋・川・民家・樹木など克明に大和絵風に描いていて、すばらしい出来映えである。

長岡藩主11代牧野忠恭の第2女で、第12代忠訓の正室となつた喜寿^{つね}が奉納した絵馬。この人は手先の器用な方であったが、この絵馬には特に堪能な押絵を自らほどこして製作し、牧野家の鎮守蒼柴神社に納めたもの。77歳の銘があるから、喜寿の祝いに上げたものであろうが、兜と桜の画題からして、昔日の牧野家の繁栄を偲んで丹精をこめたことであろう。彼女は天保14年（1843）の出生であるから、大正8年の作である。縦64.8cm、横144.0cmの大絵馬である。

▼⑰ 兜に桜の図 悠久町 蒼柴神社





▲⑯ 妙見菩薩影向図 妙見町 妙見神社

妙見神社は、妙見町の南々東の山上にある。元は神仏混淆の神社であり、妙見菩薩を祀っていた。この菩薩は神格化された北極星の本地仏であり、北辰菩薩ともいわれる。この絵馬は、妙見の村人が山上の妙見社に参詣したとき、はるかかなたの天空より妙見菩薩が瑞雲に乗って影向（來現）するのに出会い、狂氣礼拝したといい、その場面を描いたもの。麓の原庄七の家で奉納したものともいう。降臨する妙見菩薩やこれを拝する老若男女、妙見社や参道・村道・橋・川・民家・樹木など克明に大和絵風に描いていて、すばらしい出来映えである。

長岡藩主11代牧野忠恭の第2女で、第12代忠訓の正室となつた喜寿^{つね}が奉納した絵馬。この人は手先の器用な方であったが、この絵馬には特に堪能な押絵を自らほどこして製作し、牧野家の鎮守蒼柴神社に納めたもの。77歳の銘があるから、喜寿の祝いに上げたものであろうが、兜と桜の画題からして、昔日の牧野家の繁栄を偲んで丹精をこめたことであろう。彼女は天保14年（1843）の出生であるから、大正8年の作である。縦64.8cm、横144.0cmの大絵馬である。

▼⑰ 兜に桜の図 悠久町 蒼柴神社





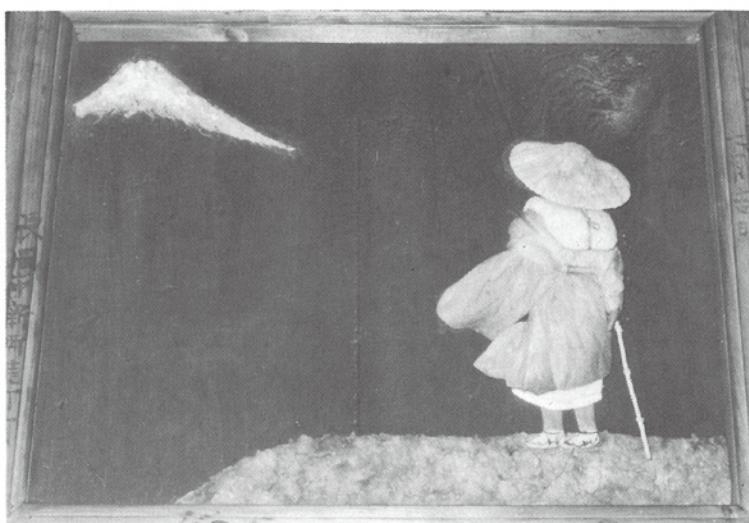
▲② 遊女社参図 宮路町 石動神社

宮路の石動神社（明治以前は石動權現社）は古くから瘡の神としての信仰があり、特に長岡の芸妓や遊女の信仰に篤いものがあった。この絵馬は、この宮路の權現様の祭礼に、あでやかに着飾った遊女が、下女を従え、人力車で乗りつけ、これから歩いて石段の急坂を登ろうとする場面である。右方には茶店ごしに人力車を覗かせ、左方には桜花咲き乱れる御山に急峻な石段と二王門や本殿を描き、山から張り落ちる清流をそえる。貴重な風俗図である。銘によれば、長岡山田町唐津樓内丸山ふじ女の奉納であり、竹雲堂の謹製である。

② 富士山登拝旅立図▶

大正5年
宮路町 石動神社

大正5年7月、新町1丁目
の女性が奉納した絵馬。富士
登拝のための出発にあたり、
その成就を祈願して自ら製作
し、奉納したものであろう。



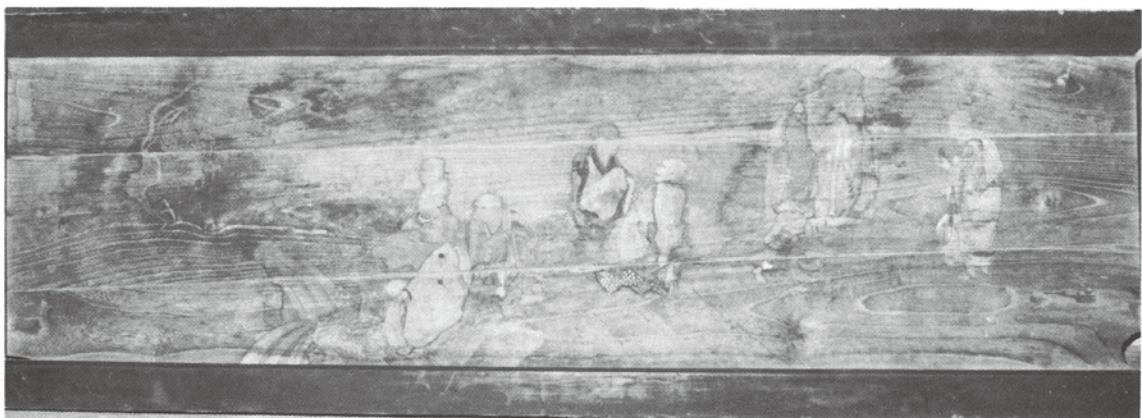


▲② 地獄図 桂町 十王堂

閻魔堂は桂町の山腹の共同墓地の入口にある。堂内正面の壇に閻魔大王や十王、三途河の婆、地蔵菩薩の像が所狭ましと並べてられている。その正面の長押の上に、縦27.3cm、横320.0cmの細長い地獄図絵馬が掲げられている。中央は閻魔大王が死者の生前の善悪を審判する場面で、左右に記録係の2王が控え、その前に鏡が置かれ、亡者が引き出されている。その場面の右の方には、重石を背にした亡者が釜に入れられたり、火の車に乗せられたり、釘抜で目玉を抜かれたり、三途河の婆が罪人の衣を剥ぐ場面、賽の河原で地蔵菩薩が小児の亡者を救う場面などが描かれ、左の方には、亡者が食物を食べたり水を飲んだりすると火になる場面、獄卒が罪人の尻穴に鉄棒をさし込んだり、湯釜に入れて呵責する場面、および西方浄土の教主阿弥陀三尊が瑞雲にのって来迎する場面などが、簡潔に象徴的に描かれている。

日光社拝殿に掲げられている絵馬であるが、元の日光社社殿は昭和28年に火災で焼失、同じ境内にあった薬師堂を移して現社殿とした。この絵馬は薬師堂時代に掲げられていたのをそのまま移したものである。絵馬の裏面にある墨書銘によれば、この扁額は天保10年（1839）2月15日、蒲原郡鹿熊村（現、見附市鹿熊）の萬福寺で、時の住職国定が寺の什物として献額したものであった。国定は古志郡福島村（現、長岡市福島町）の里正（庄屋）であったが、1妻没して悲嘆にたえず、里正の役を息子国行に譲り、僧となり、天保8年萬福寺に住した。しかしこの寺は、仏殿久しく頽廃し、屏障もなかったので、これを復興

▼④ 羅漢遊戯の図（その1） 天保10年 富島町 日光神社





㉓ 桂町十王堂内絵馬奉納の景▶

し、額を列し、善く世に勝因を結ばせしめんと欲してこの羅漢遊戯の図を写し、献額したのだという。2枚の額で、各々縦43.0cm、横159.0cm。遊戯の羅漢9人ずつ、計18人を描く。永くこの世に住して仏の正法を護持するという十六羅漢に2人の羅漢を加えた十八羅漢であろう。しかし、羅漢の遊戯がどのようなものであったかは定かでない。描くところ、法衣をまとった羅漢が山野に3人あるいは4人とたむろし、或る者は立ち或る者は坐り、何か語り合っているようでもある。㉔の左方には龍があらわされ、その下方には清流が見られる。幽玄の世界を現出した宗教画である。

▼㉕ 羅漢遊戯の図（その2） 天保10年 富島町 日光神社





㉙ 三歌仙図▶
天神町 天神社



㉚ 六歌仙図 明治44年▶
西藏王3丁目 金峰神社

歌仙図

歌道の上達を願って、歌仙の姿を絵馬に描いて奉納することが流行した。これには六歌仙図と三十六歌仙図がある。六歌仙は、平安初期の6人の和歌の名人、すなわち在原業平・僧正遍昭・喜撰法師・大友黒主・文屋康秀・小野小町。三十六歌仙は、一条天皇の時藤原公任を選定したという柿本人麻呂・紀貫之等36人の歌仙をいう。長岡にあるのは六歌仙図絵馬だけで、三十六歌仙図絵馬はないようである。㉙は3歌仙図であるが、これと対になる3歌仙を描いたもう1枚の絵馬がもとあったのであろう。㉚は明治44年長岡の町民3人が奉納、弘山の筆になる。

算額

▼㉛ 算額 享和元年 長岡市指定文化財 悠久町 蒼柴神社



数学の絵馬。数学者が難問を見事に解いたときや、数学を勉強したことによる感謝の意を表明するとき、問題や解答を絵馬に書いて神社仏閣に奉納した。神社や寺院は参詣者が集まるので諸芸諸学の発表の場となつたが、これが和算の発展にも大きく貢献した。この算額は、享和元年(1801)長岡の町民村松屋長右衛門・当銀屋万六・平石屋与次兵衛の3人が平面幾何、立体幾何、平面幾何極大極小の3つの問題を解いて、それを絵馬にして蒼柴神社に奉納したもの。

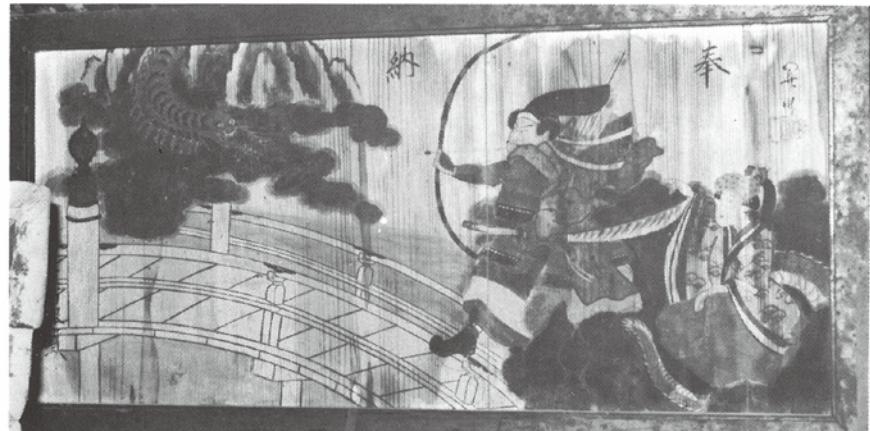


▲㉙ 千歳・翁・巫女舞図 嘉永4年 中潟町 宇都宮神社
芸能図

舞や芝居など、芸能の絵馬も掲げられた。㉙はめでたい千歳・翁・巫女の舞の図。能楽で祝言の式三番は第1は千歳、第2は翁、第3は三番叟が出て舞うが、この絵馬は三番叟の代りに巫女を入れた珍しい組合せに描いている。中潟村の若連中が奉納したもので、玉山の筆になる。㉚は歌舞伎芝居で有名な朝比奈三郎義秀と曾我五郎時致の兩人を対象的に描いた絵馬。義秀は和田義盛の子、母は巴御前。安房国朝夷で成長、大刀無双の武人となり、建保元年(1213)父義盛が北条氏を討って敗れたとき、安房に去り、その後は不詳。時致は河津祐泰の子。建久4年(1193)兄祐成と共に富士の裾野で父の仇を討ったことでも知られる。この絵は榆原勇吉の筆である。

▼㉚ 朝比奈三郎義秀・曾我五郎時致図 明治42年 高畠町 諏訪神社

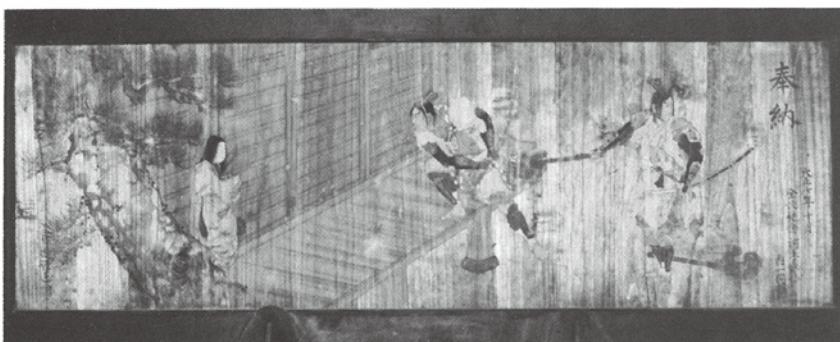


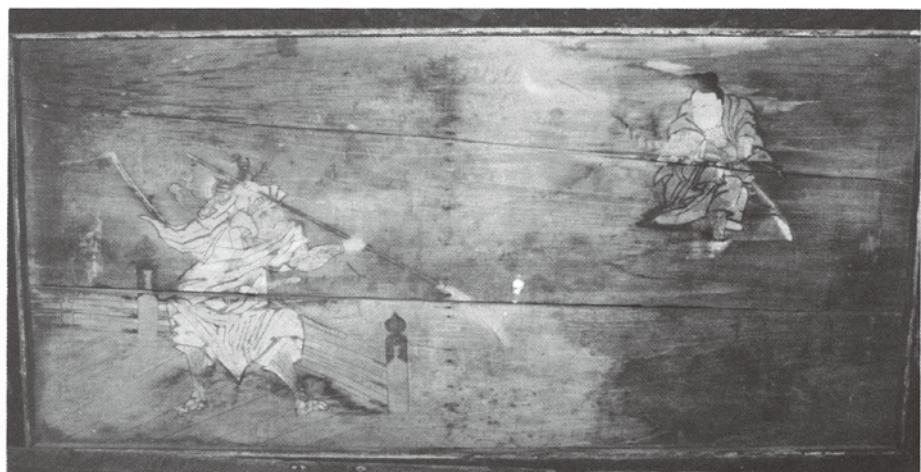


▲③ 傑藤太むかで退治図 竹町 八幡社

たわらとうた ひでさと
傑藤太(藤原秀郷)ひでさとは平安前期の下野の豪族。おうりようし押領使おうりようしとなり、佐野に住み、天慶3年(940)たいけい平
将門の乱を平げ、功により鎮守府將軍。弓術に秀で、むかで退治などの伝説が多い。③は
彼が弓でむかでを退治する話を描いたもの。画は関水。

②③は、曾我十郎祐成、五郎時致兄弟が父のかたきを工藤祐経とねらい、建久4年(1193)
將軍頼朝の催した富士の裾野の巻狩に参加し、家来の団三郎・鬼王兄弟をなだめて故郷の
母へ形見を持ち帰らせ、その夜2人は計画どおりかたきを討った。この話は、能楽・歌舞
伎の好題材として取上げられたが、その仇討の場面は絵馬にも採用された。②は病気の全
快記念の奉納品。絵は月湖筆。③は親友会の奉納。

◀② 夜討曾我図 大正7年
摺田屋1丁目 八幡社◀③ 夜討曾我図
前島町 神明社



▲㉙ 弁慶牛若丸図 青島町 羽黒神社

能楽では「橋弁慶」という。京の五条大橋の上で、武蔵坊弁慶が牛若丸(義経)と戦い、敗れて主従の契りをするという筋。絵馬は、弁慶が薙刀を振りかざし、牛若丸が刀を執って橋の欄干上を飛翔する姿を描く。㉙は玉山の筆。

▼㉚ 弁慶牛若丸図 明治12年 新組町大野 石動神社





▲⑬ 八幡太郎義家図 文政年中 竹町 八幡社



▲⑭ 陣営図 竹町 八幡社

武 者 絵

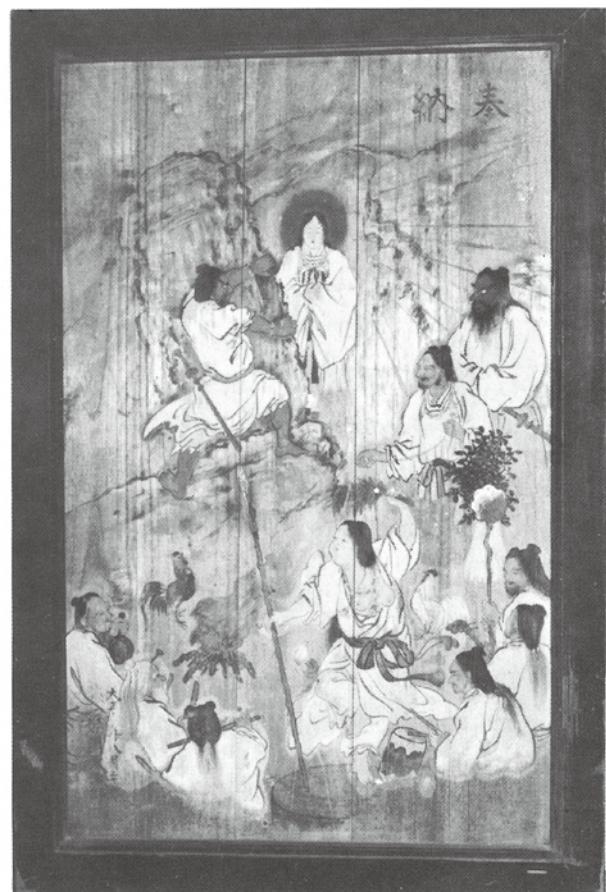
長岡でも、絵馬の題材に武者絵が好んで用いられた。特に、勇武人にすぐれ、最も騎射に秀でたという八幡八郎義家や、川中島合戦で知られる越後の武将上杉謙信と甲斐の武田信玄の一騎討の図が好んで描かれた。^⑯は、弓矢の神とされる八幡社にいかにもふさわしい義家の騎馬姿図で、文政年中に山崎氏及び竹花の惣氏子が奉納したもの。その出来映えがすばらしい。^⑰は、天神社の社殿を造った黒津の棟梁堀六太郎が今から70年ほど前に奉納したもので、画は雪山。

▼⑯ 上杉謙信武田信玄川中島一騎打図 天神町 天神社



神話図

有名な神話を題材とした絵画も流行した。天の岩戸の変は、天照大神が素戔鳴尊の暴状に怒り、天の岩屋に中に隠れたので、天地がとこやみとなり、万妖が生じたので、神々が相談してくさぐさの物を飾り、天児屋根命が祝詞を奏し、天鈿女命が舞い、手力男命が岩戸を開き、大神が出てきて世が再び明るくなつてという話。^⑨は大正6年8月27日に岩渕栄治郎の奉納せるもの。^⑩は豊詰村猪俣栄蔵の奉納、関水画。



▲⑨ 天の岩戸の変図 大正6年 高畠町 諏訪神社



◀⑩ 天の岩戸の変図
竹町 八幡社

昭和59年度事業報告

資料収集・調査

〔地学研究室〕

- 地質調査 栃尾市：6月
三島郡三島町：11月
- 研究協議 小千谷市：2月（2回），3月（2回）

〔植物研究室〕

- 植物分布調査 栃尾市：5月
三島郡出雲崎町：5月
十日町市：6月，7月，8月，12月
南魚沼郡塩沢町：8月
- 研究協議 新潟市：2月，3月

〔昆虫研究室〕

- 昆虫分布調査 南魚沼郡湯沢町：6月（3回），8月
栃尾市：6月
糸魚川市：7月，10月
十日町市：12月
岩船郡粟島浦村：3月

〔動物研究室〕

- 鳥類分布調査 三島郡出雲崎町：4月（2回）
栃尾市：6月（3回），7月
三島郡寺泊町：10月
柏崎市：11月，3月
糸魚川市：1月，2月，3月
十日町市：2月

〔歴史民俗研究室〕

- 民俗調査 三島郡越路町：4月，9月
東頸城郡松之山町：5月

学会・研修会・協議会

- 日本生態学会 4月6・7日，東京都（参加：山屋技師）
- 新潟県博物館協議会総会 4月12日，新潟市（参加：鈴木館長）
- 新潟県生物教育研究会 5月19・20日，長岡市（参加：西山館長補佐，渡辺学芸員，山屋技師）
- 北信越博物館研究協議会 5月22・23日，新発田市（参加：鈴木館長）
- 新潟県民俗学会年会 5月27日，小千谷市（参加：鈴木館長）
- 新潟県地学教育研究会 6月2・3日，東蒲原郡津川町（参加：加藤技師）
- 新潟県野生鳥獣生態研究会 6月6日，新潟市（参加：渡辺学芸員）
- 新潟県野鳥愛護会総会 6月9・10日，北魚沼郡入広

瀬村（参加：渡辺学芸員）

- 新潟県博物館協議会運営研究会 6月21・22日，十日町市（参加：鈴木館長）
- 植物地理分類学会 7月29・30日，新潟市（参加：西山館長補佐）
- 日本第四紀学会 8月1・2日，東京都（参加：加藤技師）
- 新潟県高等学校教育研究会 10月23日，三島郡越路町（参加：加藤技師）
- 新潟県博物館協議会学芸員等職員研修会 10月25・26日，中蒲原郡横越村（参加：鈴木館長，加藤技師）

- 新潟県民俗学会民俗共同調査 10月27・28日，中魚沼郡川西町（参加：鈴木館長）
- 日本考古学協会 11月10日～12日，甲府市（参加：駒形学芸員）
- 日本民具学会大会 11月22日～25日，横須賀市（参加：鈴木館長）
- 日本鞘翅目学会 12月2日，東京都（参加：山屋技師）

普及活動

- 地層をしらべる会
5月20日 大積町黒川支流，参加者18人。6月10日 長岡技術科学大学周辺，参加者5人。7月8日 中央公民館第3教室，参加者4人。8月12日，悠久山周辺，参加者18人。9月16日 金倉山，参加者8人。10月14日 中央公民館第3教室，講師：長岡市青少年文化センター 水上清光先生，参加者8人。

◦ 早春の植物を観察する会

- 4月22日 三島郡出雲崎町小木の城周辺，講師：植物研究家 坪谷富男先生，参加者54人。

◦ 雪椿さし木講習会

- 7月15日 悅久山公園，参加者8人。

◦ 親と子の夏の植物観察会

- 7月22日 八方台周辺，講師：県立新潟中央高校教諭 尾崎富衛先生，参加者30人。

◦ キノコをしらべる会

- 10月14日 東山ファミリーランド周辺，講師：見附市立見附中学校教諭 中野正剛先生，参加者73人。

◦ 雪国植物の越冬を観察する会

- 11月11日 悅久山周辺，講師：植物研究家 坪谷富男先生，参加者8人。

- 3月24日 悅久山周辺，講師：新潟市立高志高校教諭 牧野恭次先生，参加者15人。

◦ 昆虫相をしらべる会

- 三島郡出雲崎町・小木の城周辺に分布する昆虫類の生息状態を調査する。

講師：昆虫研究家 樋熊清治先生。

5月13日 参加者12人。6月17日 参加者27人。7月
27日 参加者34人。8月19日 参加者20人。

○野鳥相をしらべる会

蓬平町周辺の野鳥類の生息状態を調査する。

4月22日 参加者20人。6月24日 参加者20人。7月22
日 参加者22人。8月26日 参加者8人。9月23日 参
加者13人。11月25日 参加者16人。

○バード・ウィーク信濃川探鳥会

5月13日 信濃川左岸(長生橋下流)，参加者9人。

○野鳥集会と探鳥会

5月26・27日 大積灰下町～赤池周辺，参加者30人。

○ジュニア野鳥観察会

6月3日 悠久山～百間堤，参加者8人。

○大河津分水探鳥会

10月28日 大河津分水右岸(公園上流)，講師：県立
与板高校教諭 渡辺弘雄先生，参加者18人。

○悠久山探鳥会

11月11日 悠久山～百間堤，参加者3人。

○冬鳥さよなら探鳥会

3月17日 信濃川左岸(長生橋上流)，講師：長岡市
立表町小学校教頭 井口 忠先生，参加者42人。

○第33回生物標本展示会・第26回自然科学写真展示会

10月3日～10日(会場)中央公民館大ホール 出品者
数501人，出品点数13,456点。

○第21回県内小・中・高校生生物研究発表会

10月10日(会場)中央公民館第2教室 (発表) 小学
生の部 12題。中学生の部 1題。高校生の部 2題。

○科学博物館講演会

11月17日 中央公民館第2教室 演題：越後と佐渡の
両生類ものがたり 講師：新潟大学教授 岩沢久彰先
生。植物研究室の報告 信濃川の河辺植物 当館館長
補佐 西山邦夫。

出版物

○館報(N K H)

第46号 生物研究発表会特集	500部
第47号 特集・長岡の絵馬	700部

あとがき：本号は、長岡の絵馬を特集し、併せて59年度
当館の事業報告を掲載しました。絵馬の醍醐味を味わっ
ていただけたでしょうか。結構いろいろな絵馬があって、
興味は尽きないものです。いにしえの人びとの心意気が
うかがわれます。いずれ信濃川以西の調査も行い、続篇
を編みたいと思っています。(編集者 鈴木昭英)

○博物館研究報告 第20号

・新潟県およびその周辺地域における
ユキツバキの分布圈をとりまく植物群
— 1. ラショウモンカズラ分布型 — 石沢 進

・長岡市滝谷産鯨目肋骨化石および穿孔
貝化石について 加藤正明

・信濃川の河辺植物(第6報) 西山邦夫・荒井キミ
・長岡市のカミキリ 山屋茂人・片桐聰

・長岡市信濃川河畔における鳥類の分布
とその季節的変化 渡辺 央

・新潟県における縄文早期・前期の基礎
的研究(2) 駒形敏朗・石原正敏・小熊博史

・長岡藏王堂の中世信仰資料 鈴木昭英
館長表彰

三島郡越路町浦の岡村富一様より信濃川鵜繩漁の鵜繩
1点、同町岩野丸山武様より同漁のすくい網1点を復元
し、御寄付していただきました。よって3月29日、お二方に
館長より感謝状を贈った。

昭和59年度月別入館者数

月別	個人		団体				資料照会		計
	大人	子供	団体数	大人	団体数	子供	大人	子供	
59.4	355	391	3	39	21	2,524	13	—	3,322
5	364	272	4	72	62	5,126	29	1	5,864
6	347	324	6	307	5	498	31	2	1,509
7	384	390	6	223	4	165	23	4	1,189
8	638	1,014	3	59	2	22	50	60	1,843
9	605	572	6	170	—	—	87	3	1,437
10	615	640	2	91	7	681	106	4	2,137
11	380	295	3	27	—	—	25	—	727
12	158	207	1	12	—	—	11	—	388
60.1	106	125	—	—	—	—	6	—	237
2	261	142	—	—	—	—	18	—	421
3	502	416	1	20	—	—	15	2	955
計	4,715	4,788	35	1,020	101	9,016	414	76	20,029

職員の異動

退職(3月31日付) 今井 弘(管理員)

④猫 図▶

東片貝町 若一王神社

N K H (長岡市立科学博物館報) No.47

昭和60年3月31日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館

〒940 長岡市柳原町2番地1

T E L (0258) 35-0184

印 刷 所 あかつき印刷

長岡市新産4丁目4番7

